

大分大学トピックス

教員就職率および正規教員就職率 ともに全国1位に!

文部科学省が発表した「大学別就職状況」より、令和2年3月卒業者の教員就職率(正規+臨時)および正規教員就職率において、本学教育学部卒業生の結果が全国1位となりました。

これは、文部科学省が国立の教員養成大学・学部(教員養成課程)44大学・学部の大学別就職状況を調査し毎年発表するもので、本学教育学部は平成27年度より正規教員就職率については、常に4位以内に入っていました(平成29年度は全国2位)。また、平成27年度から令和元年度までの5年間の平均では、教員就職率では全国3位、正規教員就職率では全国1位となり、安定した教員就職状況を維持できています。

このような高い教員就職率により、本学の質の高い教員養成の実現に向けた取組の効果が着実に現れていると言えます。

令和2年3月卒業者の大学別教員就職状況 (教員養成課程)上位5大学

卒業生に対する教員就職率 (正規+臨時)	正規教員就職率 ※卒業生から進学者および保育士を除く
1 大分大学 (76.3%)	1 大分大学 (72.6%)
2 福岡教育大学 (75.0%)	2 鳴門教育大学 (63.7%)
3 鳴門教育大学 (72.1%)	3 福岡教育大学 (60.9%)
4 兵庫教育大学 (68.7%)	4 群馬大学 (59.2%)
5 群馬大学 (67.3%)	5 愛媛大学 (58.3%)
全国平均 (57.6%)	全国平均 (47.4%)

令和3年文部科学省報道発表資料より算出

由布市長に理工学部学生が 湯布院の観光VR体験コンテンツ作成を報告

2月18日に由布市役所において、理工学部の学生が由布院盆地(由布市湯布院町)の景観を仮想現実(VR)の映像にした「大分観光バーチャル体験コンテンツ」について、相馬尊重 由布市長、大久保慶 道の駅ゆふいん 駅長、由布市役所の皆さんに報告及びデモを行いました。

本プロジェクトは、大分大と由布市の包括連携協定に基づく取り組みの一環として、“大学等による「おおいた創生」推進協議会”の支援で、理工学部音メディア処理研究室(指導教員 古家賢一教授)に所属する学生や大学院生ら約10人が、昨年10月に同町を訪れ 1. つじ馬車 2. 市が実証運行中の電気自動車 3. 自転車 4. 徒歩からの映像を撮影し編集後、湯布院をいろいろな乗り物でバーチャル体験できるVR映像(2~5分)を完成させました。

VR映像を実際に体験した相馬市長と大久保駅長から、「活用してみたい」と前向きな意見がありました。今後、VR映像を見られるゴーグルを由布院観光の玄関口にあたる道の駅ゆふいんに設置する予定です。



由布市長、道の駅ゆふいん 駅長らへの報告会 電気自動車バスへの撮影機材取り付けの様子

大学生CSVビジネスアイデアコンテストにて本学学生が 「株式会社良品計画賞」「三井住友カード株式会社賞」を獲得

株式会社メンバーズ主催の第4回大学生CSVビジネスアイデアコンテストにおいて、本学経済学部チームが「株式会社良品計画賞」を、経済学部、理工学部の学生が「三井住友カード株式会社賞」を獲得しました。

このコンテストは、持続可能な社会の実現に向けて、参加企業よりテーマが提示され、大学生が各テーマに沿ってCSV(=社会課題をビジネスで解決する事業やプロモーション)ビジネスアイデアを競うものです。

経済学部河野憲嗣教授の指導のもと、2名の学生(河野ゼミ4年小島萌、藤原璃奈)がチームを組み、空き家集落をテーマパークに見立ててつなぎ、若者の理想の未来を実現する社会を「じゃぱにパーク」という構想にまとめて、本選に挑み「株式会社良品計画賞」を受賞しました。

また、3名の学生(経済学部3年横尾真希、経済学部3年縣内紅央、理工学部3年渡邊大成)がチームを組み、本選で見事「三井住友カード株式会社賞」を受賞しました。こちらは、「キャッシュレスで消費者行動を変え、食品ロスを減らす」というテーマで、見切り商品の販売促進、社会貢献の可視化を行える独自のアプリを活用したビジネスアイデアを発表しました。

株式会社メンバーズのプレスリリースで開催報告が公開されています。



大分大学同窓会連合会役員

役員名	氏名	選出母体等
会長	秦 政 博	豊友会会長
副会長	松 尾 孝 美	翔工学生会
理事	秦 政 博	豊友会会長
	石 川 公 一	四極会会長
	高 倉 健	玉樹会会長
	古 田 佳代子	桜樹会会長
	松 尾 孝 美	翔工学生会
	上 杉 奈 菜	福蓮会会長
	安 東 千 秋	九峰会会長
監事	守 山 正 胤	大分大学社会連携担当理事
	高 井 道 晴	四極会副会長
	戸 高 孝	翔工会副会長

顧問及び名誉会長

	氏名	選出母体等
顧問	北 野 正 剛	大分大学長
名誉会長	園 田 和 孝	元豊友会会長

大分大学同窓会連合会 機関紙 No.7

令和3年7月1日発行

[事務局]

大分大学研究推進部産学連携課内

〒870-1192 大分市大字旦野原700番地 TEL:097-554-7513/FAX:097-554-7740

E-mail:dosoren@oita-u.ac.jp HP:https://www.alumni.oita-u.ac.jp/



【巻頭言】“一步前へ”

新型コロナウイルスに翻弄され続けて一年余、今度は第四波の流行期に入ったとか。変異によって一筋縄ではいかない手ごわい相手との挑戦は、まだ終息の域には遠いようです。

未経験の事態に当惑した昨年は、本会にあっては当初予定の恒例行事等すべてを休止せざるを得ず、まことに残念な一年間になりました。三密の徹底やマスク姿、学業や勤務でのオンライン形態、往来制限、営業自粛の常態化など、社会経済活動の全体に大きな変容をもたらしました。ようやくワクチン接種が始まり曙光的な観測はあるものの、先行きはまだ不透明です。

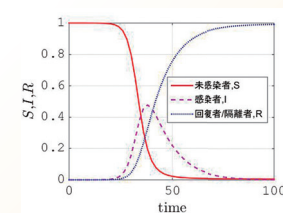
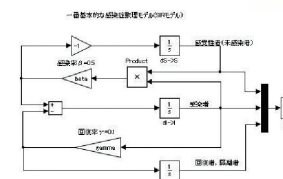
こうした状況の推移を注視しつつ、今年度は卒業生の連合・連帯の組織として同窓の絆をより密に編み、母校への連携・協力を推進するとして本会の目的に沿った活動を進めることができるよう、一念天に通じよという思いをいたしているところです。

教育・研究・地域との連携など知の拠点としての母校の一層の伸展を念願し、これまで幾多の困難を打ち負かしてきた先賢の知恵にも学びながら、“一步前へ”と確かな歩を進めたいものです。会員諸賢の益々のご発展を祈念いたします。



同窓会連合会会長 秦 政博
(令和3年5月1日記)

◆ 新型コロナウイルス雑感



図：感染症SIR数理モデル

昨年来の新型コロナウイルスによるパンデミックは世界を激変させ、現在も猛威を振っています。OBの皆様方もたいへんな思いをされていることと思います。この1年余りで感じたことは、日本という国の衰退と問題対処能力の欠如です。左図は感染症数理SIRモデル（約100年前にケルマック-マッケンドリック両氏の提案したモデルの中の一つ単純なもの）のSimulinkモデルとその計算結果図です。現在でもそのモデルがCOVID-19用に改良され続けています。学問の息の長ささと地道さを感じさせるモデルです。本年3月25日に、理工学部の一学期が卒業しました。このような危機の中で社会に船出することは大変ですが、このような若者たちがこの難局を救ってくれることに期待するとともに、自分自身も奮起しなければと思うこの頃です。

翔工学生会長 松尾 孝美(エネルギー工学科2回生)

◆ 若い力も加わって

昨年はコロナ禍の中にあつて事業計画の変更や中止を余儀なくされ、支部活動も縮小され、職場や地域の諸団体との連携もままならなかった。



その中であつて唯一母校と会員、会員同志をつなぐ絆となったのが「豊友会会報」である。会報は年2回(2月、7月)の発行で、今年2月をもって145号を迎えた。

紙面は8面で編成され、1面に主な事業報告と先生の講話。2・3面には大学生の声と大学の先生方の研究活動の姿。4・5面は各職場からの声、6・7面は交流の広場で、「お達者さん」、「私の歩いた道」。8面には各支部の活動報告と文芸欄など。

何とんでもこの会報作りの特徴の一つは大学生の活動である。編集委員に大学生が加わって、大学関係の取材を一手に引き受け頑張っている姿は特筆すべきことである。

会報が届くと遠距離の会員より「大学の今がわかって嬉しかった」「元気に活動されている皆さんの姿に力をいただいた」「若い人もしっかりとした考えを持っている」等々の声が届く。「思わず手にしたくなる会報」会員同志の絆をより深める紙面作りをめざして努力しなければと思う。

豊友会副会長 小野 京子

◆ 経済学部創立100周年

大正10年に大分高等商業学校として発足した経済学部は、来年、令和4年に創立100周年を迎えます。これまで、経済学部と四極会が共同で設置した実行委員会で記念事業の準備を進めてきました。

記念式典は令和4年6月25日(木)にiichiko総合文化センターで開催します。



当日の記念講演は直木賞作家の安部龍太郎氏にお願いしています。一階のアトリウムプラザでは、卒業生の芸術文化祭「自遊展」を実施するほか、学生による大分駅前「祝祭の広場」での前夜祭、記念式典の前後には、全国から集まる同窓生を対象に県内の国宝を巡る記念ツアーやゴルフ大会も計画しています。

また、本年9月からは、大分県知事広瀬勝貞氏や日銀前総裁の白川方明氏など著名な経済人による公開経済トップセミナーを5回にわたりホルトホールで実施します。各同窓会の皆様のご参加をお願いいたします。

形あるものとしては、黒土始記念講堂や卒業生に開放するアーカイブルームの整備、記念碑の建立も計画しています。

四極会は全力で母校の100周年を盛上げます。

四極会事務局 高橋 秀武

◆ COVID-19との闘い コロナ禍での受療行動の変化

現在私は医学部総合診療・総合内科学講座と地域医療学センターを担当しています。いずれもこの十数年の間に新規に設置された講座・部門です。この度、同窓会連合会機関紙への寄稿を仰せつかりました。楽しい話題をご提供したいと思いますが、玉樹会としての活動も自粛のなか、やはり新型コロナウイルス感染症の話題に行きついてしまいます。「いつ誰から感染するかわからない」「自分が感染源になるかもしれない」、玉樹会の会員はこの思いを抱きながら、日々緊張の中、異なった職場(場所)でコロナ対応、診療に従事しています。コロナ禍では患者の受療行動にも変化が起きています。地域医療学センターが大分県内の医療機関を対象に実施した調査では、慢性疾患患者で通院が途絶えた患者がいると54.7%の医療機関が回答しています。一方、入院や施設入所では面会ができなため在宅医療や在宅看取りのニーズはそれぞれ22.0%、21.5%が増加したとのことです。この調査を行ったのは今年の3月ですが、4月末の大分は紛れもなく第4波の渦中にあり、各所でクラスターが生じ、医療機関も逼迫して極めて厳しい状況に追い込まれています。

現在GW前です。コロナ流行の帰趨は国民1人ひとりの行動にかかっていますので、GWの人の動きを最小限にしてこの状況乗り越え、ワクチンによる集団免疫が達成され、コロナ感染症の流行が徐々に収束に向かい、全ての同窓会の活動が再開できることを願うばかりです。

玉樹会理事 宮崎 英士

◆ コロナ禍でも継続する同窓会の取り組み

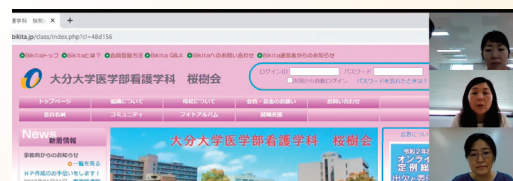
桜樹会の同窓生の多くは、保健・医療・福祉・介護・教育等の分野で活動をしています。

私は、母校にて看護基礎教育に関わりはじめ、ようやく3年経過しました。昨年は、COVID-19の影響で授業や実習内容の変更が必要となり、看護や教育についての自身の未熟さに加え、新たな生活様式、オンライン授業やこれまでとは違う実習方法に戸惑う日々でした。しかし、限られた臨地での実習の中で、学びを得ようと対象者の方々や医療者の方々に懸命に関わろうとする学生の姿を見て、私も戸惑うばかりではなく、できることを考え続け、実践しなければならぬと気づかされた1年でもありました。

桜樹会では、昨年10月にオンラインで定例総会を開催しました。会員それぞれの自宅から参加し、当会名誉顧問のマーナ・豊澤英子先生にも海外のご自宅からご参加いただくこともできました。これまでは、「同じ場所」にいなければ会うことができないと思っていましたが、新しい繋がり方を実感できた経験となりました。桜樹会専用のWebページも作成し、徐々にweb化も進んでおります。

会員の方々は、COVID-19という困難な状況の中、それぞれの立場で日々活動を続けていることと思います。桜樹会は、今後も母校の発展を願うとともに、情報発信、同窓生同士の交流を図り、より身近な同窓会であるよう取り組み続けたいと考えています。

桜樹会理事 大野 夏稀



◆ コロナ禍2年目の地域を支える

昨年来の新型感染症では生活習慣の見直しなどで大変な生活を余儀なくされています。

また、東京オリンピックが開催されるということで聖火リレーがありましたが、本同窓会の会員の中からも走者がえらばれて大分市内を走りました。研究科の特性から社会福祉関係や医療関係に従事する同窓生がほとんどであり、昨年から続くこの状況の中でそれぞれの職場で大変なご苦労をされているところです。また、地域での子どもを取り巻く社会の激変によって放課後に行き場をなくした子ども達や、介護保険法によるサービスを受けるほどではないけれども日中の居場所をなくした高齢者など。さらには経済情勢の悪化や家庭環境によっては支援を必要とするご家庭もあります。このような社会的状況の悪化についてそれぞれの同窓生が社会的課題だと認識したことについて、関わっている方が多くおり、皆さんが地域社会の下支えの役割を果たしています。

九峰会 安東 千秋

卒業生(学部卒業生)調査へのご協力をお願い

この度、平成18年・23年・28年の3月に大分大学の各学部を卒業された皆様について、大学入学時、在学時及び学部卒業後の状況をお伺いし、本学における教育の成果を測定するアンケート調査を実施することになりました。この調査は、調査結果から得られた卒業生の皆様のご意見を、教育の質の改善・向上に役立てることを目的としております。

つきましては、趣旨をご理解いただき、調査へのご協力を宜しくお願い申し上げます。

なお、詳細につきましては、本誌に同封しております「卒業生(学部卒業生)調査へのご協力をお願い」をご一読くださいますようお願いいたします。

お問合せ窓口 大分大学教育マネジメント機構教学マネジメント室教学IR担当(kyougaku-ir@oita-u.ac.jp)